



秋晴れの日
そばで舌鼓みと施設見学

北見支部 加藤 幸恵

11月8日、道東Bブロックでは、美幌そば打ち試食会、津別認定こども園と旧瀧口邸を見学しました。

当日は、会員8名と子供5名の参加者で、午前中は美幌そば同好会の方の指導をいただき、そば打ちに挑戦しました。皆、なかなか思うように打てず、切るときには、きしめんの様な太さ（私だけかも？）になってしまいました。

そばは、日本のソウルフードです。シンプルな材料で奥深い日本古来の食文化を子どもたちと共に学び体験し、味わったひとときでした。

そばでお腹を満たした後は、津別認定こども園を見学しました。湾曲した流線型の集成材を使った屋根構造は、さすが「木材の町」津別町ならではの印象の施設で、利用する方々も角のない柔らかな交流がこの場所で生まれますようにと願うところです。

最後に昭和元年建築の古民家、旧瀧口邸を見学しました。昭和の雰囲気安堵感を与えてくれる建物です。町の有志が保存活動をし、この建物の活用方法を検討中です。これまでにそば打ちやキルト展等が開催されました。

このような地域の動きをきっかけに、これから古い建物を保全する動きがこの北海道にも高まっていてくれることを強く思いました。



旧瀧口邸前にて

全国大会ふくしま大会
～交流セッション①報告～

札幌支部 東 道尾 (漢学会女性委員会委員)

全国大会初めての試みとして、青年・女性・まちづくりの連合会3実践委員会が合同で、テーマ「防災・減災・まちづくり」と題して各委員会からの報告とパネルディスカッションが行われた。女性委員会からは、(公社)福島県建築士会女性委員長の鈴木深雪さんより「考えよう！明日を担う子供達のための住まいづくり」～放射線対策住宅を考える～というテーマの報告があった。

震災から3年あまりが経過したが、いまだに放射線の影響を心配しながら暮らしている。子供達が多くの時間を費やす住環境の改善をすることで、少しでもリスクを減らせることはできないかと、建築士として取り組めることを模索していた。まず、放射線の基礎から学び、遮蔽する放射線を「ガンマ線」に特定した。次に普段から実務で使われている建材や遮蔽効果を謳っている建材を集めて遮蔽効果のデータを探った。



その結果を参考に、新築と改修の実寸の建物モデルを、会員の敷

地に建てて計測した結果、ある程度の遮蔽効果がある数値が得られた。当日の参加者には、この過程を編集した冊子が配布された。また、放射線のリスクを気にしている方の参考に活用してほしいと、報告を締めくくった。



除染作業中の旗～車中より撮影

『福島県の被災地を訪ねて』

全国大会終了後、郡山在住の会員S氏の運転で、郡山市→飯館村→南相馬市まで出かけた。車中では線量計の数値に目が離せず、飯館村に入ると急に数値が上がり、道路沿いに「除染作業中」と書かれた派手な色の旗が、まるで祭りの幟（ノボリ）のように林立しており、異様な風景に映った。南相馬市小高区は、かなり除染作業が進み、やっと市街地の除染作業が始まった郡山市内より線量が低い。しかし、人の姿は見られず、海岸線を走る陸前浜街道周辺は、撤去された瓦礫の山で廃墟の様相。さらに浪江町に入ると、無人の街並みが続き、幹線道路は一部侵入禁止の信号が点滅している。同行していただいた3人の何気ない会話のなかに、放射線という言葉がなくなる限り、この災害と事故の復興にはならないと実感した。